

# 学習進路通信

2024 年度 第3号

11月2日発行

文責／学習進路部



## 大学入試で求められる力

11 月に入って、長く続いた暑さも翳りを見せ、ようやく秋の空気を感じられる季節となりました。生徒・保護者の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今回は、「大学入試で求められる力」について考えてみたいと思います。

近年、大学入試改革が進み、一般選抜に加えて、総合型選抜や推薦型選抜など、多様な選抜方式が注目されています。それぞれの選抜方式で大学が受験生にどのような力を求めているのかについて、興味深いデータがあります。

それはベネッセが 2023 年 10 月～12 月に全国の国公私立大学を対象に行った「学校推薦型選抜・総合型選抜に関するアンケート」の集計結果です。調査結果によると、学校推薦型選抜で大学が受験生に求める力は回答率の高い順に次の 5 つでした。

- ①明確な志望動機
- ②基礎学力
- ③思考力、判断力、表現力などの応用的学力
- ④コミュニケーション力
- ⑤何事にも前向きに取り組む姿勢

「明確な志望動機」が最上位であることは大方の予想通りでした。ここで注目したいのは 2 位、3 位には「学力」が挙げられている点です。

推薦入試は人物評価や授業外での活動歴、出願書類作成能力等が重視されるように考えている受験生が多いですが、大学が第一に求めているのは「学力」であるということは重要です。

4 位、5 位にランクインしたのは「コミュニケーション力」「何事にも前向きに取り組む姿勢」です。こうした力はこれまで「学力」に比べて注目されて来ませんでしたが、近年「非認知力」として注目されている力です。

一方、総合推薦型選抜の受験生に求める力として回答率が高かったのは次の 5 つです。

- ①明確な志望動機、
- ②何事にも前向きに取り組む姿勢
- ③コミュニケーション力
- ④思考力、判断力、表現力などの応用的学力
- ⑤卒業後の展望

「明確な志望動機」が最上位であることは学校推薦型選抜と同様です。5 位の「卒業後の展望」も内容的には「明確な志望動機」と重なります。

残りの 3 つは、順位こそ異なりますが、学校推薦型選抜と重なる結果となりました。学校推薦型選抜との違いは、総合型選抜のほうが、思考力、判断力、表現力などの「応用的な学力」や「非認知力」を、より多く求めている点です。

文部科学省は、2020 年度以降、総合・推薦型選抜を含む全ての選抜で学力検査を必須としています。その一方で、総合・推薦型選抜は、「学力以外の要素」を重視する試験であるというイメージが、誇張された形で、メディアや広告等で広められています。

今回のアンケート結果は、こうした世の中のイメージと、実際に大学が入試で求めている力との間に認識のずれがあることを示しています。

2025 年度入試で大きな関心を集めたトピック

に東洋大学が「学力テスト型」「併願可」の公募制推薦を導入したことが挙げられます。

この入試は「推薦入試」という名称であるにも関わらず、他の入試と併願可能で、出願に必要な成績条件、志望理由書等の書類提出、面接、小論文などがいっさい無く、学科試験のみで合否を判定する入試です。学校長の推薦を必要とする以外は、一般選抜と変わらない入試であるという点で教育業界では、事実上の「一般入試の早期化」「青田買い入試」ではないかという声も出ています。

こうした形態の入試は関西ではすでに多くの学校で導入されており、今後は関東でも同様の入試を導入する学校が増えると予想されています。

大学がこうした入試を同様する背景としては、少子化の中で早期に（より学力の高い）学生を確保したいという思惑と、拡大を続ける総合・推薦型選抜の選考における大学側の負担（志望理由書や課題レポートの評価、小論文や面接試験等に関わる人的コスト）を軽減したいという大学側の事情が考えられます。

いずれにしても、大学入試が大きな岐路を迎えていることは間違いありません。今後、大学入試がどのような方向に進むにしても、「学力」が大きなカギとなることは確実といえるでしょう。

加えて、「学力」プラスアルファの力として「非認知力」に対する注目が高まっているのことも重要です。いわゆる難関大学の入試では、「学力」にプラスして「非認知力」の高さが問われることが増えて来ています。

また、「コミュニケーション力」「何事にも前向きに取り組む姿勢」といった力は大学進学だけでなく、社会に出て活躍する上で今後ますます必要となってくる力です。

授業を中心として「学力」を伸ばすことと同時に、授業外での主体的な学習の取り組みや、学校行事、課外活動などを通して、「非認知力」をバランスよく育てることが、大学進学さらにその先の「志」の実現に向けて大切であるといえるでしょう。2学期後半～3学期も、生徒のみなさんの取り組み、活躍に期待しています。

## 学年ごとの取り組み報告

### 中1

#### ■JICA 講演会（7月8日）

中1では進路を考える上でより高い視座を得るため、「自分の枠を壊す」をテーマに様々な活動を行ってきました。その一環として、現在タンザニアで活動中の根田あかりさんより、女性の人権問題について話をいただきました。

普段、自分たちが生活している環境とは全く異なる世界についての話を聞いた結果、生徒からは「自国がそうだからと言って、他国もそうだろう」という頑固な考えが減った」「表面的ではない世界の現状をもっと知りたいと思った」といった感想が出されました。今後も、生徒の「枠」を壊す取り組みを実施して参ります。

#### ■「新聞を読もう」

総合の時間を用いて、様々な題材の新聞記事を読み、自分の考えを執筆し、教員からフィードバックを受ける取り組みを行っています。現在、問題となっている社会問題など、普段、生徒が触れる機会が少ない内容に目線を合わせ、自分の意見を作る活動を通じて生徒の枠を広げ、「社会知」へと視野を広げていくことを目指します。

これまでに4回実施しました。まだまだ紋切り型の意見も多い一方、時折、ハッとさせられるような意見もあります。個々の生徒の感性を大切にできるよう、今後も指導に力を入れていきます。

#### ■学習ガイダンス（9月25日）

山脇祭を終えたタイミングで、入学後2回目となる学習ガイダンスを実施し、国・数・英の担当者から勉強の方法や考え方について改めて説明しました。

中学受験では志望校の合格最低点を超えることを目標に勉強してきた生徒もいるかも知れません。けれども、計算や英単語、漢字学習は100%身につけてこそ初めて役に立ちます。授業で行う確認テスト・小テストは満点をとることが当たり前であるということを生徒と共有しました。

年度当初、数学を苦手に行っている生徒が多かったことから、数学の学習に力を入れるように働きかけてきた効果もあって、数学的な物のとらえ方、考え方が身についてきたと感じています。ここからは、数学に英語を加えた2科目の学習に力を入れていくよう強く伝えました。

## ■放課後講習について

1学期は学習習慣をつけるための取り組みとして放課後学習を実施していましたが、2学期からは個々の生徒の状況に応じた学力向上を目指した放課後講習を実施しています。

G1～G2クラスの生徒を対象とした英語実力養成講座や、教科書内容が理解できている生徒を対象に応用レベルの問題を扱う数学応用講座、貝合わせの歴史を学ぶとともに、貝合わせを作って遊ぶ理科の講座「貝殻で貝合わせと箸置きを作ろう」

さらに11月からはTOEFL iBT(ITP)対策講座とTOEFL Junior 対策講座など、様々な講座を開講予定です。

これまでのべ273人の申し込みがありました。学習に対する積極的な姿勢が感じられます。

## ■ボキャブラリーコンテスト

2学期最初の英語の授業内でボキャブラリーコンテストを実施しました。

生徒たちは夏休み前に提示された範囲の学習をし、コンテストに臨みました。語彙力向上の取り組みは、今後も継続的に行っていきます。

## ■保護者面談・生徒面談

夏季休暇中および9月の面談期間に、保護者面談を実施し、入学後の生徒の成長について共有しました。また9月の面談期間を中心に、2回目の生徒面談を実施しました。

## ■朝読書

朝礼後の時間を使って、朝読書を実施しております。現在は特に制限なく、各自が自分の好きな本を選んで読むことを進めております。

## 中2

### ■三者面談で生徒によるチャレンジプログラム

#### 選択プレゼンテーションを実施しました

今年度も中3年次のチャレンジプログラム希望申請の時期になりました。今年度は生徒たちに自らの選択を自らの言葉で語ってもらう機会を設けるべく、保護者面談を三者面談に変更し、生徒1人ひとりに保護者の方と担任に向けて3分程度のプレゼンテーションを行ってもらいました。

いろいろなテーマ設定のできるマイチャレでじっくり視野を広げていきたいと考えている生徒、入学前から科チャレや英チャレに憧れを抱いてきた生徒など、それぞれの想いが紐解かれる時間となり、お互いに立ち止まって考える貴重な機会となりました。こうした節目を今後も大切にしていって、それぞれの成長を支えていきます。

### ■続・ホームクエスト（総合）

夏休み明けの総合の時間では、デザイン思考の手法を用いて各自が夏休み中に取り組んだ「日常のモヤモヤ解決」のパイロット探究の様子が共有されました。日頃から気になる困りごとをどのような形で解決できるのか、提案だけで終わらせるのではなく、実際に試作品をつくったり、必要なデータを収集して分析したりすることの重要性を確認し、より踏み込んだ課題設定や解決方法の検討を重ねています。

中間考査明けには、プレゼン手法についての講義も予定しています。発表の質を向上させるには、パブリックな場で発表する経験が何よりの原動力になります。実践的な知識とスキルを磨いていくことで、より学びに向かう姿勢が高まっていくことを期待します。

### ■放課後講習にCLIL（数学×英語）が登場

2学期より、普段EISでお世話になっている元理数科教師のSamuel先生を講師にお迎えし、CLIL講座が新たに加わりました。

帰国生や英語を使った他教科の学習に興味のある生徒を対象に、数学の授業進度とリンクした

単元学習を進めています。英語という言語のフィルターを通して数学に向き合うと、また新たな世界が広がるはずです。次号にて受講している生徒たちの声を紹介させていただきます。



### 中 3

#### ■進路支援について

夏季課題として、大学のオープンキャンパスに行きました。1 学期の総合の時間に大学についての基礎知識を学び、夏休みを利用して実際に訪問しました。模擬講義やキャンパスツアーに参加して、大学についての理解を深めました。

また、課題図書『13 歳からの「学問のすすめ」』やオンライン図書館「ジャパンナレッジ」の書籍を読み、学問などについて詳しく学びました。

文化祭では、各自の探究活動の中間発表を行いました。2 学期の総合学習の時間に小論文テストを受験しました。1 学期に課題文の要約や文章構成について学んだ成果が発揮できていると思います。

11 月 8 日には、「DEI と女性の社会参画支援」という演題で法政大学のダイアナ・コー副学長による講演会を予定しています。事前学習や事後学習も含め、「女性と労働」について学びを深めていきます。

#### ■学習支援について

国・数・英を中心に、夏期講習や 2 学期放課後講習を開講し、積極的な参加を呼びかけ、学力向上に努めています。

2 学期初めに第 2 回学力推移調査を受験しまし

た。受験後には振り返りを行い、自身の弱点を分析し対策を立てました。高校進学に向けて授業を大切にし、日々の課題や小テストなどに取り組んでいます。

### 高 1

#### ■オープンキャンパスへの参加

学問探究活動の一環として、大学のオープンキャンパスに 2～3 つ行くこと、大学の先生方による高校生向けの講義動画「夢ナビ講義動画」を複数視聴することを夏休みの課題としました。

自分が興味を持っている学問の学びについて、直接体験することで、生徒たちは多くのことを感じたようです。

#### ■科目選択に向けた面談を実施しました

9 月の後半より、高 2 選択科目を中心として、進路について情報共有をすることを主として、保護者面談を実施しました。また、その前後で、生徒面談も実施しました。

高 2 選択科目はもちろんのこと、具体的な志望大学・学部についても話をしました。生徒の希望する進路の実現のために、今後も支援を継続していきます。

#### ■第 2 回 アントレプレナーシップ講座

9 月 20 日に、芝浦工業大学の奥田宏志先生を招き、第 2 回アントレプレナーシップ講座を実施しました。ビジネスアイデアとアントレプレナーシップの結びつきについてお話があり、生徒たちは、ビジネスアイデアのヒントが自分たちの身近にたくさんあることを、よく理解することができました。この経験を、今後キャリア甲子園に向けた準備に繋げていきます。

#### ■マイナビ キャリア甲子園に向けて

2 学期から、「マイナビ キャリア甲子園」に向けて、生徒たちは準備しています。まずは、11 月末に書類審査が実施されます。想像力を



多分に働かせた魅力的なビジネスアイデアが多く出てくることを、期待しています。

### ■ポートフォリオの記入

模試結果の入力・振り返りに活用すべく、マナビジョンのポートフォリオ機能を活用しています。ポートフォリオには、模試の振り返りはもちろん、学校内外の様々な活動についての記録を残しておくことができます。今回、生徒たちは9月5日実施スタディーサポートの振り返りを記入しました。今後、模試の受験等の度に定期的に記入していきます。

## 高2

### ■夏休みの学習の取り組み

夏休みには、1日6時間以上の学習時間を確保することを目標とし、学習時間240時間オーバーを目指す取り組みを行いました。また、予定や学習の状況を手帳に記録し、毎週日曜に提出する取り組みは1学期から行っていますが、夏休み中も継続して行いました。

進路研究の一環として、大学のオープンキャンパスへの参加を課題としました。比較検討できるよう複数校参加し、雰囲気や特色の違いをレポートにまとめました。また、論理的思考力や表現力を磨く機会として、夏休みに小論文のテキストに取り組み、9月に小論文テストを実施しました。

### ■模試志望校判定の見方説明

9月2日(月)に6月30日実施のベネッセ総合学力テストの成績表を返却しました。今回から志望校判定(A~E 評価)が付くので、判定の見方・注意点を説明しました。内容としては、ベネッセと河合模試のC判定の出し方とその違い、私立大学と国公立大学合格のために取るべき判定、判定の受け止め方となります。特に、

①高倍率・高辞退型の私立大学では、D・E判定でも合格している生徒も少なくないので、(油断せず)諦めずに努力し続けることが重要である

こと

- ②判定で一喜一憂せずに自分の立ち位置(=偏差値)を知り、目標達成のためにすべきことに取り組むことが重要であること
- ③過度な不安を抱かないことが重要であること
- ④志望校判定では引き続き挑戦校・相応校・安全校を書いて視野を広げること

上記の4点を強調して伝えました。高2では自分の目標を意識して学習を続け、成績を上げることが最重要ポイントとなります。今後の模試をベースメーカーとして、活用してレベルアップしていくことが重要となることを生徒に意識してもらう機会になりました。

### ■各模試振り返り

6月30日(水)実施のベネッセ総合学力テスト、8月21日(水)実施の河合全統記述模試、9月5日(木)実施のスタディーサポートの振り返りを9~10月に行いました。ベネッセ総合学力テストの振り返りでは、上記の志望校判定を1つ上げるために必要な偏差値を確認し、偏差値を1上げるために必要な点数を「標準偏差÷10」で求め、どの問題に正解すべきかを明確にしました。また、基礎力を問うスタディーサポートや、河合全統記述模試の振り返りでは、As is to be シート(理想・現状・to do)で振り返りをし、理想(の偏差値)と現状のギャップをなくすために、日々すべきことを自覚する機会となりました。

また、今年度の河合模試と駿台模試の日程を確認し、積極的に会場(外部)受験をするように声をかけています。学校では見知った生徒に囲まれて受験できますが、本番では同じ環境では試験を受けられません。また、限られた模試の機会を活かして、自分の立ち位置(=偏差値)を知り、目標の偏差値に届くよう伝えていきます。

### ■生徒面談・三者面談

9月中に選択科目や進路について個別に生徒面談を実施しました。また、9月下旬から、次年度

の選択科目や志望する大学・学問系統の確認を中心に三者面談を行いました。生徒自身の意思を保護者・教員と共有するとともに、進路に関する情報の提供、学校・家庭での様子などの情報共有の機会にもなりました。

### ■朝読書学習（継続）

1 学期同様、月～木曜日を朝読書、金～土曜日を朝学習の時間に設定しています。2 学期以降の朝読書では、文章読解のときに必要となる前提知識を得るために文庫本の抜粋を読み、また、大学入試の小論文の文章・問題を読んで入試までにどの力や知識を付けるべきか逆算できるような取り組みをしています。また、英語の朝学習では入試問題を実施するなど実践的な学習も実施しています。

### ■模試課題・学習の取り組み（継続）

1 学期同様、国数英から模試の過去問の課題を出して、1 点でも多くとるための取り組みを実施しています。現在は 10 月 30 日ベネッセ総合学力テストに向けて模試の過去問演習と振り返りの課題を行っています。

また、英語科では自主学習用教材 mini zap に加え、難易度が高い自主学習教材の「英語の壁」を配布しています。数学科でも週 3 回、弱点となりやすい分野を中心に自主学習用のプリントを配布しています。数学 I A I I B の範囲のルーティンワークも定着するように支援しています。

## 高 3

### ■サマー・ブースト・プログラムの実施

昨年に引き続き、夏期講習と自習室利用を促し、学習時間を確保するサマー・ブースト・プログラムを実施しました。お昼には希望制でお菓子を用意し、糖分補給をしながら集中して学習を進めました。また、学習計画実行表を各自で作成し、具体的な学習計画・学習内容を明確にして、毎日の学習に役立てました。

### ■河合塾第 2 回全統記述模試(8/25 外部会場実施)

普段は学校内で実施している模試について、入試本番の雰囲気を経験するという目的で、外部会場での実施としました。普段はいない男子高校生や浪人生などもいる試験会場で、緊張したり・驚いたりしながら受験してくることができました。

### ■大学入試共通テスト出願ガイダンス・出願

事前ガイダンス(9/4)では、願書等の資料を配布し、受験料の事前払い込み等、注意点等を共有しました。

9/25 に出願票をとりまとめて志願者全員出願することができました。

### ■志望理由書・面接練習

夏休み明けから始まっている、指定校推薦・総合型選抜・公募制推薦について、志望理由書の添削や小論文指導・面接練習などを実施しました。過去の受験レポートなどを参考にしながら、実践的な練習が行えるよう、学年で担当を割り振って指導を行いました。

### ■大学による合同説明会を行いました

10 月 26 日(土)午後、大学の入試担当者に来ていただいて、各大学の学びや入試に向けた最新情報をお話ししていただく合同説明会を実施し、120 名ほどの生徒が参加しました。

積極的に質問する生徒も多く見られ、大学の担当者の方からも「みんな熱心に話を聞いてくれました」と感想をいただきました。

#### \*参加大学一覧\* (五十音順)

青山学院大学/大妻女子大学/北里大学/共立女子大学/國學院大學/駒澤大学/上智大学/昭和女子大学/成蹊大学/成城大学/清泉女子大学/専修大学/中央大学/東京家政大学/東京工科大学/東京女子大学/東京電機大学/東京都市大学/東京農業大学/東京薬科大学/東京理科大学/東邦大学/日本大学/日本女子大学/法政大学/星薬科大学/武蔵大学/明治大学/明治薬科大学/明星大学/立教大学

## 学力推移調査（中1～中3） 実施報告

中学校では、年に3回、ベネッセコーポレーションの「学力推移調査」を受験しています。このテストは、主に中高一貫校の生徒を対象に、英語・国語・数学の3科目における学習到達度を測定することを目的としています。定期考査よりも出題範囲が広く、初見の問題が出題されるため、現在の自分の客観的な学力を把握できる貴重な機会となっています。テストの結果をもとに、どの問題ができていてどの問題ができていなかったのか、できていない問題が出来なかった原因は何かを振り返って、今後の学習方法の改善につなげましょう。

### ■GTZについて

ベネッセの学力テストの特徴は、生徒の学習到達状況がGTZ（学力到達ゾーン）という指標で示される点です。GTZはS1からD3までの15段階に分かれています。

気をつけなくてはならないのは、このGTZが学力の到達度そのものを示すものではなく、同じテストを受けた全国の同学年の生徒の中での自分の順位を示すものであるということです。つまり、学習の進み具合に応じて自然にB2からB1、A3へと上がっていくのではなく、全国の同学年の生徒よりも学習の進み具合が速ければGTZが上がり、遅ければGTZが下がるという仕組みです。

よく、生徒から「自分なりに頑張って勉強して前よりもできるようになったと思ったのに、GTZが下がってしまいました」という相談を受けますが、これは「自分なり」の学習ペースが全国の同学年の生徒よりも遅かったことが原因であると考えられます。

GTZが上がらないときは、自分の学習ペースが全国の生徒に比べて遅れていることを示し、逆にGTZが上がっているときは、学習ペースが全国の生徒よりも早いことを示しています。このように

GTZに注目することで、自分の学習ペースが適切かどうかを確認することができます。「学力推移調査」を学習のペースメーカーとして有効に活用してください。

なお、このGTZは高校卒業まで共通して用いられる指標です。以下の表は、それぞれの段階を大学受験の難易度に照らし合わせたものです。

- S1 最難関大レベル
- S2・S3 難関大レベル
- A1 難関大可能レベル
- A2・A3 国公立大・中堅私立大レベル
- B1・B2・B3 国公立大・中堅私立大可能レベル
- C1・C2 四年制大可能レベル
- C3 実力養成レベル
- D1・D2 基礎力養成レベル
- D3 基礎・基本養成レベル

山脇の高校生が第一志望として挙げることが多い、首都圏の国公立大学や早慶上理、GMARCHといった大学に合格するためには、GTZでA1レベル以上が目安となります。中学生の皆さんは、まだ具体的な進学先をイメージできていないかもしれませんが、GTZでA1レベル以上をキープしていれば、将来進学したい大学が決まったときに、学力面で困ることは少ないでしょう。

一方で、現時点でA1レベルに届いていない場合は、段階的にレベルアップできるよう、学習方法や学習時間を見直していくことが大切です。C1・C2レベルの「四年制大学可能レベル」とは、「全国どこにある大学でも、どんな学部でもいいから進学できる」という意味です。しかし、行きたい大学をある程度自分で選べるようになるためには、少なくともB3以上、首都圏である程度知名度のある大学を目指すなら、B1以上が必要です。

GTZを上げるためには、今の学習ペースよりも早く学力を伸ばしていく必要があります。周りの生徒も努力しているので、一気にGTZを上げるのは簡単ではありません。特に中高一貫校ではない中学生は、高校受験に向けて学年が上がるにつ

れて学習ペースがどんどん速くなります。その流れに追いつくためにも、こつこつと学習内容や学習時間を継続的にレベルアップしていくことが大切です。

## ■学習状況リサーチの結果について

ベネッセの学力推移調査では学力テストだけでなく、生徒の学習に対する日々の取り組み状況を確認するための学習状況リサーチも行っています。

調査項目数は学年によって異なりますが、おおよそ 70 項目程度で、項目の内容は多岐にわたっています。ここでは学習時間の項目に絞って各学年の現状と課題についてご報告します。

## 中 1

【図 1】は、9 月 5 日に実施した第 2 回学力調査における平日と休日の自主学習時間についての回答をまとめた表です。

【図 1】中 1 の自主学習時間（第 2 回学力推移調査より）

| ●Q010.授業がある日の自主学習時間 | 山脇学園(%) | 全国(%) |
|---------------------|---------|-------|
| ほとんどしない             | 3.8     | 9.6   |
| 30分                 | 11.5    | 19.2  |
| 1時間                 | 22.9    | 24.8  |
| 1時間30分              | 25.7    | 17.7  |
| 2時間                 | 25.3    | 16.3  |
| 3時間                 | 8.3     | 5.7   |
| 4時間                 | 0.7     | 1.1   |
| 5時間                 | 0.0     | 0.4   |
| 6時間以上               | 0.0     | 0.2   |

| ●Q011.休日の自主学習時間 | 山脇学園(%) | 全国(%) |
|-----------------|---------|-------|
| ほとんどしない         | 2.4     | 7.5   |
| 30分             | 2.1     | 8.5   |
| 1時間             | 6.3     | 12.6  |
| 1時間30分          | 6.9     | 12.0  |
| 2時間             | 19.4    | 19.9  |
| 3時間             | 26.4    | 17.1  |
| 4時間             | 16.7    | 9.2   |
| 5時間             | 9.4     | 5.1   |
| 6時間以上           | 4.2     | 3.1   |

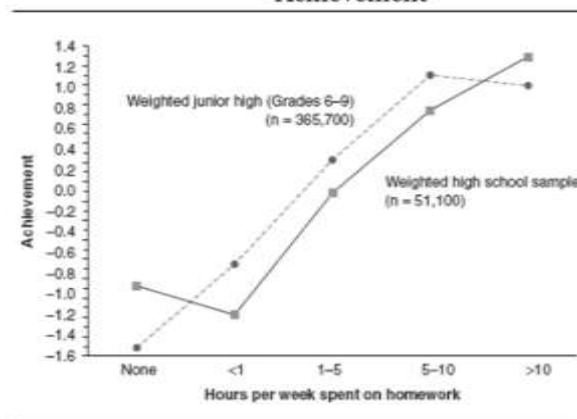
この表を見ると、山脇生で平日 2 時間以上の自主学習時間を行っている生徒は 34.3%で、全国平均の 23.7%を大きく上回っていることが分かります。また、休日 4 時間以上の自主学習を行っている生徒は 30.3%でこちらも全国平均の 17.4%を大きく上回っていました。

成績別で見ると、校内成績で上位 20%以内の生徒 73%が平日 1 時間 30 分以上、84%が休日 2 時間以上自主学習をしていました。

その一方で気になるのは、平日の自主学習時間を「30 分～ほとんどしない」と答えた生徒が、全体で 15.4%、成績上位 50%以下の生徒では 20.6%いる点です。

放課後学習と学習効果の関係については様々な研究がありますが、その中でも良く知られているものに米国デューク大学 Harris Cooper 教授による "The Battle Over Homework: Common Ground for Administrators, Teachers, and Parents"(2001 年)があります。Cooper 教授は米国の小中学生を対象とした研究で放課後学習と学習効果の相関性を明らかにした上で、1 日の最適の放課後学習時間を学年×10 分であるとしています。中学 1 年生は 7 年生として数えるため、これを当てはめると 10 分×7 年生=70 分が目安となります。

Figure 2.1 The Curvilinear Relationship Between Homework and Achievement



\* H. Cooper "The Battle Over Homework" (2001)より

一方、日本の公立の小中学校では「学年×10 分+10 分」を目安としているケースが多いです。これを当てはめると中学 1 生は 80 分となります。

ただし、これらの数字はあくまで平均的な中学生をイメージした目安として示されたものです。将来、難関大学への進学を目指す中学生を指導す



る学習塾では、「学年×15 分（中1は 1 時間 45 分）」や、「学年+1 時間（中1は 2 時間）」を目安としているところが多いようです。

このように、放課後学習の最適な時間については、専門家の間でも意見が分かれているところですが、共通しているのは「放課後学習には学習効果がある」ということを認めている点、そして、最も低い基準を当てはめたとしても「1 時間では足りない」という点です。現在、「30 分～ほとんどしない」と答えた生徒はまずは「1 時間」を、「1 時間」と答えた生徒はそこからさらに時間を増やすことを、「2 時間以上」と答えた生徒はいまの学習時間をキープすることを目指しましょう。

中学生の学習時間については、ベネッセの興味深いデータがあります。【図2】はベネッセが主催する「中高一貫教育 オンライン研究会」（ベネッセコーポレーション）で示されたもので、中学入学後の学習時間の変化かがその後の成績推移にどのように関わっているかを示しています。

左のグラフを見ると、中学入学前の平日の学習時間を入学後も維持できた生徒が、中1の春から秋にかけて成績を伸ばしているのに対して、中学入学後に学習時間が減少した生徒は、成績を落としていることが分かります。

【図2】中1の学習時間と成績推移（ベネッセの資料より）



休日の学習時間についても、中学入学前よりも学習時間を増やしている生徒が成績も上昇しているのに対し、学習時間を減らしている生徒は成績も下降しています。

興味深いのは、成績が下降している生徒のほう  
が中学入学時点では平均学習時間が多かったという点です。中高一貫校では「自分はこれまで受験に向けて人一倍頑張ってきた」という気持ちが強い生徒ほど、その反動で入学後に学習時間が急に少なくなる傾向があります。その結果、中学生としての学習の土台を作らなければならない大切な時期に学習習慣を身に着けることができず、3年後には中学受験をしていなかった小学校時代の同級生に学力で追い抜かれてしまうといったことが起こりがちです。

4 月～9 月にかけて学習時間が減っている生徒は、今は成績が下がってはいなかったとしても今後成績が下がっていく可能性が高いです。もう一度学習習慣の見直しを行いましょう。

## 中2

【図3】は中学2年生の第2回学力調査における平日と休日の自主学習時間についての回答をまとめた表です。

【図3】中2の自主学習時間（学習状況リサーチより）

| ●Q010.授業がある日の自主学習時間 | 山脇学園今回(%) | 山脇学園前回(%) | 全国(%) |
|---------------------|-----------|-----------|-------|
| ほとんどしない             | 5.9       | 5.4       | 16.2  |
| 30分                 | 19.5      | 13.7      | 23.1  |
| 1時間                 | 23.2      | 28.5      | 25.4  |
| 1時間30分              | 22.8      | 24.2      | 14.8  |
| 2時間                 | 19.1      | 20.9      | 12.5  |
| 3時間                 | 5.1       | 6.1       | 3.3   |
| 4時間                 | 1.5       | 0.7       | 0.5   |
| 5時間                 | 0.7       | 0.0       | 0.2   |
| 6時間以上               | 0.0       | 0.4       | 0.1   |

| ●Q011.休日の自主学習時間 | 山脇学園今回(%) | 山脇学園前回(%) | 全国(%) |
|-----------------|-----------|-----------|-------|
| ほとんどしない         | 3.7       | 5.1       | 12.0  |
| 30分             | 4.0       | 3.2       | 11.3  |
| 1時間             | 10.3      | 7.9       | 15.2  |
| 1時間30分          | 8.8       | 11.2      | 12.4  |
| 2時間             | 22.4      | 21.7      | 19.2  |
| 3時間             | 21.3      | 24.5      | 14.2  |
| 4時間             | 12.5      | 11.9      | 6.5   |
| 5時間             | 7.0       | 10.5      | 3.5   |
| 6時間以上           | 5.1       | 4.0       | 1.8   |

全国平均と比べて学習時間が長い生徒の割合が高く、山脇生がよく勉強していることが分かります。

その一方で前回との比較では、平均学習時間が少しずつ減少傾向である点が気になります。特に平日「30 分～ほとんどしない」と答えた生徒が19%から25%に増えていることが気になります。

中1の記事で採り上げた内容を当てはめると、中2は一番少ない基準に当てはめても「80分以上」が放課後学習時間の目安となります。「30分～ほとんどしない」では十分な学習ができていない可能性が考えられます。

さらに中2で気になるのが、「30分～ほとんどしない」と答えた生徒が、どの成績帯にも万遍なくいる点です。このことは「勉強をしていないけれど成績が良い」という状態の生徒が一定数いるということを意味します。

「勉強をしていないけれど成績が良い」というのは一見すると良い状態のように見えますが、実は危険信号です。

ある程度勉強ができる生徒にとって中学の学習内容はそれほど難しくありません。特に英語や国語が得意な生徒によく見られる傾向ですが、単語や文法、漢字などをコツコツ勉強しなくても自分の持っている知識や読解力で解けてしまうことがあります。

こういった生徒が、高校に入る是後からスランプに陥るケースがよくあります。問題の難易度が上がり、自分の持っている知識や読解力で問題が解けなくなった時に、途端に出来なくなります。地道に勉強をして知識を身に着けたり、学んだことを応用して問題を解いたりする習慣を身に着けて来なかったことで、どうやってスランプから脱すればよいか分からないまま成績が下降線をたどるというパターンです。

仮にそのような状態にならなかったとしても、今から勉強をコツコツ頑張った自分に、後から追いつくことは出来ません。

MLBで活躍する大谷翔平選手を引き合いに出すまでもなく、優れた実績を挙げる人は、才能があることに甘んじることなく、その才能を伸ばすための努力も人一倍行っているものです。自分で自分の可能性を狭めないように学習習慣をしっかりと継続しましょう。

一方、中学2年生でもう1つ気になるのが、「長時間勉強しているにもかかわらず成績が伸び悩んでいる」ケースです。今回全体的に、成績層が

高いほど、平日・休日の学習時間が長い傾向が見られました。ところが、中2については、「平日4時間以上」「休日6時間以上」と回答した割合が最も高かったのは「成績下位20%」の生徒でした。

このように「勉強に時間をかけているのに成績が伸びない」という生徒については、学習方法や学習内容が適切でない可能性が考えられます。教科担当の先生に相談して自分の学習のやり方を見直すようにしましょう。

### 中3

【図4】は中学3年生の第2回学力調査における平日と休日の自主学習時間についての回答をまとめた表です。

全国平均よりも学習時間が長めという点は、中1・中2と変わりませんが、中1・中2に比べると全国平均との差は小さめです。

特に気になる点は、平日1時間30分以上学習している生徒が前回の48%から38%に大きく減っている点です。代わりに前回の39%から47%と増えているのが、平日「30分～1時間」と回答した生徒の割合です。

【図4】中3の自主学習時間（学習状況リサーチより）

| ●Q010.授業がある日の自主学習時間 | 山脇学園今回(%) | 山脇学園前回(%) | 全国(%) |
|---------------------|-----------|-----------|-------|
| ほとんどしない             | 10.3      | 13.3      | 18.3  |
| 30分                 | 17.2      | 15.4      | 22.9  |
| 1時間                 | 29.7      | 23.4      | 24.5  |
| 1時間30分              | 16.8      | 22.7      | 14.1  |
| 2時間                 | 17.9      | 21.0      | 11.9  |
| 3時間                 | 3.3       | 3.8       | 3.5   |
| 4時間                 | 0.4       | 0.3       | 0.6   |
| 5時間                 | 0.0       | 0.0       | 0.2   |
| 6時間以上               | 0.0       | 0.0       | 0.1   |

| ●Q011.休日の自主学習時間 | 山脇学園今回(%) | 山脇学園前回(%) | 全国(%) |
|-----------------|-----------|-----------|-------|
| ほとんどしない         | 8.4       | 8.7       | 13.5  |
| 30分             | 8.8       | 7.7       | 11.7  |
| 1時間             | 12.1      | 7.7       | 14.9  |
| 1時間30分          | 8.1       | 10.1      | 12.1  |
| 2時間             | 23.1      | 22.4      | 18.5  |
| 3時間             | 16.5      | 24.5      | 13.4  |
| 4時間             | 11.0      | 12.2      | 6.2   |
| 5時間             | 4.8       | 4.9       | 3.1   |
| 6時間以上           | 2.2       | 1.0       | 1.9   |

成績層別では、校内順位上位20%の生徒は平日「2時間」と答えた生徒が最多だったのに対し、校内順位20%未満の生徒ではいずれも「1時間」が最多、校内順位下位20%の生徒については、80%が「1時間以下」という回答でした。

一般に中学生の学習時間は学年が上がるにつれて増えるのが普通です。ある企業による調査によれば、中1の平均学習時間は85分、中2が87分、中3が135分で、3年生になると一気に学習時間が増えることが分かります。

一方、山脇の現中学3年生の平均学習時間は中1（9月）が105分、中2（9月）が79分、中3（9月）が66分でした。

【図5】は学習時間ごとの割合を時期ごとにまとめた表です。「平日2時間以上」の生徒の割合が中1では50%を超えていたのが、中3では22%まで減っていることが分かります。その一方で、「平日1時間以下」の生徒の割合は中1では22%だったのが、中3では57%まで増えています。

こうした話題になると、「一貫校は高校受験がないのだから勉強時間が少なくて当たり前」という意見が出て来ることがあります。しかし、中学の学習内容は学年が進むにつれて難しくなります。学習内容が難しくなればそれだけ学習に時間がかかるはずです。このことは高校受験の有無とは全く関係ありません。むしろ、学習時間が増えることのほうがむしろ「当たり前」です。受験勉強のように毎日5時間も6時間も勉強する必要はありませんが、学力を維持するためには最低でも「平日2時間」、学力を伸ばしていきたいなら「平日3時間」を学習時間の目安にしましょう。

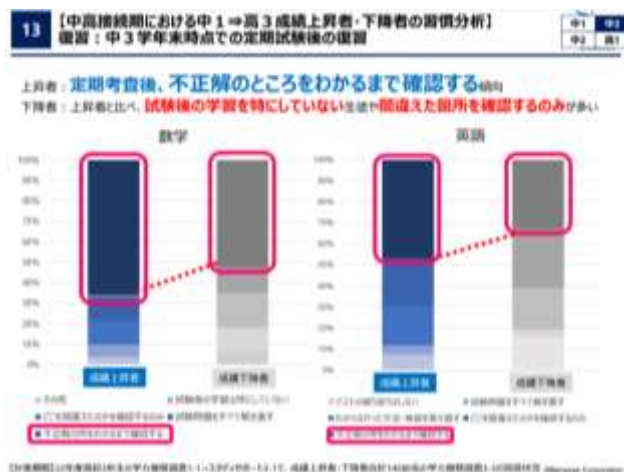
【図5】中2の自主学習時間（学習状況リサーチより）

| ●Q010.授業がある日の自主学習時間 | 中3-9月(%) | 中2-9月(%) | 中1-9月(%) |
|---------------------|----------|----------|----------|
| ほとんどしない             | 10.3     | 6.7      | 2.4      |
| 30分                 | 17.2     | 13.4     | 8.0      |
| 1時間                 | 29.7     | 26.1     | 11.1     |
| 1時間30分              | 16.8     | 21.6     | 25.3     |
| 2時間                 | 17.9     | 23.0     | 34.9     |
| 3時間                 | 3.3      | 6.0      | 12.5     |
| 4時間                 | 0.4      | 0.7      | 2.4      |
| 5時間                 | 0.0      | 0.0      | 0.7      |
| 6時間以上               | 0.0      | 0.0      | 0.3      |

学力を伸ばしていくためには定期考査や学力テストの復習の仕方も重要です。

【図6】は「中高一貫教育 オンライン研究会」（ベネッセコーポレーション）で示されたデータで成績上昇者と成績下降者の定期考査後の復習の取り組み方の違いを示したグラフです。

【図6】考査後の復習と学力推移（学習状況リサーチより）



このグラフを見ると成績上昇者が定期考査後「不正解のところをわかるまで確認する」傾向があるのに対して、成績下降者は「試験後の学習を特にしていない」「間違えた箇所を確認するのみ」の生徒が多い傾向があることが分かります。

いうまでもなく学習とは「出来ない」ことを「出来る」ようにする取り組みです。「出来ない」ことを「出来ない」ままにしていれば、いつまでたっても学力は伸びません。分からないところを分からないままにしないということが大切です。

## 高大連携プログラム

### 東京大学 医科学研究所による特別講義を実施しました

7月12日、東京大学医科学研究所准教授の伊東潤平先生を本校にお迎えして、「パンデミックにおけるウイルス研究」というテーマで特別講義を実施していただきました。

伊東先生は同研究所の感染・免疫部門システムウイルス学分野でウイルス学とデータサイエンスの融合研究をされています。特別講義では、新型コロナウイルスがどのようにしてパンデミックを引き起こしたか、その時に最前線でどのような研究・対策がされていたのかを丁寧にお話いただきました。さらに、伊東先生のもとで研究をされている若手研究員の方にもお越し頂き、研究者になったきっかけや博士号取得に至るまでの過



程、研究者の具体的な仕事内容などを、研究者の魅力とともに話していただきました。

質疑応答の時間には生徒から多数の質問が挙がり、一つ一つの質問に丁寧に答えてくださりました。



▲伊東先生（中央）と若手研究者のお二人

※この特別講義は、独立行政法人日本学術振興会「科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金(国際先導研究)『ポストコロナ時代を見据えた学際ウイルス学の推進』」の活動の一環として実施したものです。

#### 高大連携プログラム

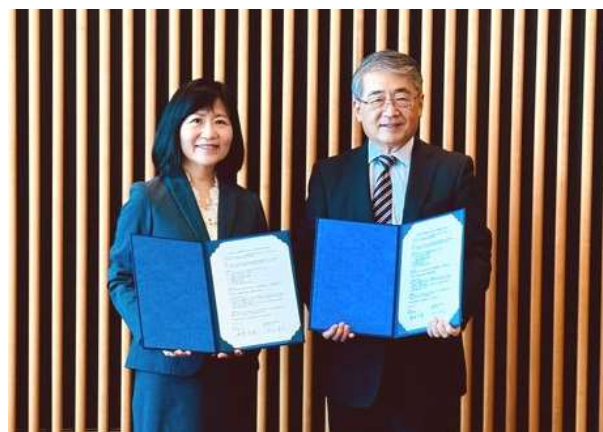
### 法政大学と高大連携協定を締結しました

7月17日（水）、法政大学（東京都・千代田区）と高大連携協を締結しました。今回合意した主な相互協力事業は下記の通りです。

- 一 大学が提供する各種教育プログラムの実施
- 二 高校の各種教育プログラムへの講師派遣
- 三 大学の学生を教育実習生として受け入れ

なお、相互協力事業においては相互の施設・設備などを活用できるものとし、相互に関心を持つテーマについては共同で研究活動を行うことになりました。

協定締結を受け、早速、法政大学の SDGs 学習プログラム「START プログラム」への生徒の参加、法政大学 副学長ダイアナ・コー先生による中3生を対象としたキャリア講演会の実施など交流がスタートしています。



▲連携協定締結式の様子（右は廣瀬学長）

#### 高大連携プログラム

### 東京農業大学の先生方による入門講義を実施しました

7月17日（水）、「農学の学びの広がりを知ろう」というテーマで、東京農業大学の先生方による出張講義を実施し、中学2年生～高校1年生を中心に約70名の生徒・保護者が参加しました。

農学イコール農業のイメージを持っている方も多いですが、その研究領域は、生命科学、食品安全、栄養学、医学、薬学、理学、工学、環境学、エネルギー学など幅広い分野に及びます。

そうした農学の学びの広がりについて、今回は6名の先生方が中学生にも分かるようにそれぞれのご専門領域に基づく入門講義を行って下さいました。



▲食品安全健康科学科 岩槻先生による講義



応用生物科学部の山本先生・岩槻先生・曾先生からは、科学と生物の視点で新たな「食」を創造する学びについてのお話、動物の味覚の不思議や高齢などによって失われた味覚を再生するための最先端の研究のお話、微生物による「発酵の力」でプラスチック問題を解決するお話がありました。また、生命科学部の坂田先生・鈴木先生・涌井先生からは、理学・工学・薬学も取り込んだ先端研究によって生命現象の謎にチャレンジする学びについてのお話、付き合い方によってヒトの敵にも味方になる微生物のさまざまな特殊能力のお話、病原体を覆う「糖鎖」に着目して新しい治療薬や診断薬の開発につなげるお話がありました。

講義の最後には、山本先生による東京農業大学こめ研究プロジェクトのスピンオフ企画「新しいお米の食べ方コンテスト」の紹介や、入試に関する個別相談も実施しました。生徒たちにとっては、私たちの身近なものも「農学」という視点から見ることで見え方が変わることを知るきっかけになったのではないかと思います。

12月23日（月）には今年も世田谷キャンパスで「大学の学び体験会」を実施予定です。

#### 高大連携プログラム

### 昭和女子大学 ボストン 高校生プログラムに参加しました

7月30日から8月11日にかけて、昭和女子大学の高大連携校を対象とした昭和女子大学ボストン高校生プログラム「America Today」が実施され、山脇学園からは高校1年生3名が参加しました。

プログラムの内容は「アメリカ社会の今」をメインテーマに、「アメリカ社会と政治」、「アメリカ社会での女性の活躍」について、授業、フィールドトリップ、ゲストスピーカーの講演を通じて学ぶ、といったものです。

参加した高校生は、ボストン郊外にある昭和女子大学の海外キャンパスである昭和ボストン

を拠点に、現地の大学生インターンや現留学中の大学生アシスタントのサポートを受けながら、英語でさまざまなワークショップに取り組みました。

またフィールドトリップでは、州議事堂やボストン公共図書館、ボストン美術館、ハーバード大学、現地のスーパーマーケットなどを訪問し、まさに「アメリカの今」を体験する貴重な機会となったようです。

出発予定日に JAL が米国で契約している機内食提供元によるストライキの影響で出発便が変更になるなど、予期せぬアクシデントもありましたが、昭和女子大学と、ツアーサポートの京王観光の方々の対応で、大きな影響なく無事にプログラムを終えることができました。

次年度の参加募集（現中3・高1）については2025年3月頃にご案内予定です。



▲米国マサチューセッツ州にある昭和ボストン

#### 高大連携プログラム

### 芝浦工業大学サマー・インターンシップに参加しました

8月1日から8日にかけて開催された女子高校生を対象とした芝浦工業大学サマー・インターンシップ2024に参加しました。

このイベントは芝浦工業大学との高大連携プログラムの一環として毎年夏休みに実施しているもので、今回で3回目の実施となります。対象校と参加生徒は年々拡大し、今年は合計9校から計87人の女子高校生が参加するビッグイベ

ントとなりました。

山脇学園からは、高校1年生から3年生まで参加校中最多の33名が参加し、大宮キャンパス・豊洲キャンパスの研究室に分かれて研究体験を行いました。

8月7日には研究室ごとのグループに分かれての発表会を行い、8日のクロージングセレモニーでは山田学長から参加生徒に修了証が授与されました。



▲クロージングイベントの様子  
(写真中央は「テクしばくん」)

山脇学園はこのイベントの立ち上げ時から参加しており、今年の春には第1回サマー・インターンシップに参加した生徒の中から3名が芝浦工業大学に進学しています。

こうしたイベントをきっかけに本格的に工学系への進学を目指し、将来、日本の科学技術をリードする女性研究者・技術者が育ってくれることを期待しています。

#### \*協定女子校特別選抜について\*

山脇学園高校は芝浦工業大学との高大連携協定に基づき、サマー・インターンシップ参加者を対象とした協定女子校特別選抜を実施しています。2026年度入試の募集要項については、2025年春に新高3（現・高2）にご案内予定です。

#### 高大連携プログラム

### 東京農業大学研究室インターンシップに参加しました

8月19日から30日にかけて、高校1年生・2年生の生徒9名が「東京農業大学 研究室インターンシップ」に参加しました。

このプログラムは、東京農業大学との高大連携協定に基づいて今年から新たに実施するもので、農学・生命科学系の学びに興味を持つ高校生が、夏休みを利用して大学の研究室に通い、大学の先生や大学院生の指導を受けながら探究課題に取り組むというものです。

参加生徒は、生命科学部の「植物遺伝子工学研究室」「機能性分子解析学研究室」「生体高分子化学研究室」「バイオインフォマティクス研究室」の4つの研究室に分かれてそれぞれ5日、探究課題にチャレンジしました。

生命科学部長の坂田洋一先生からは、参加生徒について「様々な活動に参加して、いずれも手を抜かず、忙しいはずなのに楽しんで取り組んでいる様子が教員一同、感服しました」という温かいメッセージをいただきました。

今回のインターンシップを通じて学んだケ池が。今後の探究活動や進路選びに大いに活かされることを期待しています。



▲機能性分子解析学研究室での実習の様子

#### 高大連携プログラム

### 芝浦工業大学主催 SBMC Junior ワークショップに参加しました

8月27日、芝浦工業大学豊洲キャンパスにて、中高生がビジネスモデルを考える SBMC Junior ワークショップを開催し、芝浦工業大学

の附属中高および、山脇学園を含む連携協定校3校の生徒合わせて18名が集まりました。

プログラム内容は、「世界のトップ企業と同じ方法でビジネスを考えてみよう」をテーマに、企業向けビジネスモデル教育の第一人者である今津 美樹 先生を講師に迎え、ビジネスの仕組みを1枚のキャンパスで表す世界標準のツール「ビジネスモデル・キャンパス」の使い方に取り組むというものです。

参加生徒は班に分かれて、大学の先生や学生スタッフの方にアドバイスをいただきながら、「エンドユーザーが意見を伝えやすいSNS型レビュー共有アプリ」など、それぞれが興味を持つビジネスアイデアについて、ビジネスモデル・キャンパスを作成し、ビジネスモデルの作り方について学びました。

#### \* SBMC Junior について \*

SBMC Junior は、芝浦工業大学が共同機関として参画する GTIE (Greater Tokyo Innovation Ecosystem) として、文部科学省・JST のスタートアップ・エコシステム形成支援の採択を受け、芝浦工業大学が実施する中高生向けのアントレプレナーシップ教育プログラムです。

11月・12月には以下のプログラムを実施する予定です。(いずれも希望者の参加)

##### ◆11月9日(土)

「ビジネスアイデア発表・交流会」(高1・高2)

※山脇からは3チームが参加予定です

##### ◆12月18日(水)

「スタートアップ企業視察」(中3・高1・高2)

※詳細が決まり次第募集案内を出します

#### 高大連携プログラム

### 東京大学加藤先生による講演会を実施しました

9月2日、中学3年生を対象に、東京大学工学部長 加藤 泰浩 教授による講演会を、昨年に引き続き今年も実施しました。

加藤先生の高校時代のお話から始まり、大学・大学院を経て研究者となるまで、ご専門分野であるレアアース資源の研究、東京大学工学部の先生方が取り組んでいる先端的な研究の紹介、女子学生の研究生活など、普段なかなか聞くことができないお話に、生徒たちは大いに刺激を受けたようでした。

質疑応答では、研究のことや受験勉強のことなど生徒から出る質問の1つ1つに、時にユーモアを交えながら丁寧に答えて下さいました。最後は加藤先生の「自分で限界を作らないで、沢山のことに挑戦してほしい」という力強いメッセージで締めくくられました。

講演前には東京大学工学部の研究というと、遠い世界のように感じていた生徒も多かったようですが、講演後は自分たちの日々の学びがつながる先の世界を少し身近に感じられるようになったのではないかと思います。

今回の講演会をきっかけに、2学期の生徒たちの取り組みがどのように変わっていくのか楽しみです。



▲加藤先生「東大で、工学部で待ってます」

#### 高大連携プログラム

### 12月実施の高大連携プログラムについて

12月の2学期期末考査後から冬期休業期間にかけて、大学のキャンパスで実施する訪問型プログラムを実施します。



通常の授業期間ではなかなか訪れることのできない大学を訪れ、オープンキャンパス等では体験できない本校生向けのプログラムに参加するチャンスです。中学生から参加できるプログラムもありますので、ぜひこの機会に大学を訪れ大学の学びに触れてみましょう。

#### ◆北里大学 チーム医療ワークショップ(12月12日)

高1・高2 希望者対象。医・薬・看護・保健系統の大学・学部を志望する生徒を対象に、北里大学相模原キャンパスでチーム医療をテーマにしたワークショップを行います。

※詳細が決まりましたら募集案内を出します。

#### ◆金沢大学 情報学プログラム (12月13日)

高1・高2 サイエンスクラス希望者対象。金沢大学角間キャンパスを訪れ、大学院の授業とプログラミング活用した大規模情報処理を体験します。

##### [金沢大学 体験授業](#)

※現在は募集を終了しています。

※サイエンスクラス以外も方で参加のご希望がある場合は学習進路部・高桑、サイエンス教育部・西森までご相談ください。

#### ◆東北大学 見学ツアー (12月16日)

高1・高2 (・中3) 希望者対象。東北大学青葉山キャンパスを訪れ、キャンパスや研究室の見学、女子学生との交流を行います。

##### [東北大学 見学ツアー](#)

※現在は募集を終了しています。

※追加で参加のご希望がある場合は学習進路部・武田、川村までご相談ください。

#### ◆東京農業大学「大学の学び体験会」(12月23日)

中2～高2 希望者対象。東京大学世田谷キャンパスで、応用生物科学部・生命科学部の先生による中高生向けの模擬講義・模擬実験実習を行います。

※詳細が決まりましたら募集案内を出します。

## 新たな学びのプロジェクト 「Project 4H」が始動します

12月より、従来の高大連携とは異なる新しい形の学びのプロジェクト「Project4H」が始動します。

このプロジェクトは、「Human(人々の健康)」「Health(プラネタリーヘルス)」「H2O(地球と生命の財産である水)」「Hope(未来の希望)」の4つのHをテーマに、中学生・高校生が科学の面白さと日常生活とのつながりを体感する体験型教育プログラムとして、山脇学園と大学の先生方が共同で立ち上げるものです。

プロジェクト代表は 加藤 靖浩 先生(慶應義塾・医学部)です。また、学術顧問に 安井 正人 先生(慶應義塾大・医学部)、 挾間 章成 先生(福島県立医科大学・医学部)、アドバイザーに 篠崎 尚史 先生(日本両棲類研究所所長、山脇有尾類研究所理事長)をお迎えする予定です。

プログラムの内容としては、①出前授業(参加型講義)、②出前ラボ(講義&ミニ体験・出前実験)、③体験型ツアーなど、中学1年生から高校生、保護者の方まで幅広い方にご参加いただける企画を予定しております。

プロジェクトの詳細につきましては近日中に発表予定です。ご期待ください。

## 冬期講習について

12月24日(火)～26日(木)の期間に冬期講習が行われます。申し込みは11月中旬を予定しています。普段の授業ではなかなか扱えない問題や3日間だけの特別なプログラムもあります。ぜひ、奮ってご参加ください。

## 学習系アプリの活用について

現在、全学年で学習時間を管理する Studylog を、高校生を対象に学習動画を視聴できるスタディサプリを導入しています。スタディサプリでは、基礎から応用まで幅広い教材が用意されています。例えば、苦手な科目を中学生の範囲



から復習することもできますので、ぜひ使ってみてください。

また、Studylog やスタディサプリを使用するにあたって、アカウントやパスワードが分からなくなってしまった場合や、SSI の入室 QR コードがうまく読み込めないなどのトラブルが発生した際には学習進路の Google Classroom の授業にある「Studylog 問い合わせ」よりコメントでお知らせください。

## SSI (Self Study Island) 便り

### ■ 2 学期中間考査前自習室予約キャンペーン

10 月 2 日 (水) から 10 日 (木) にかけて、中間考査前に自習室の予約チケットがもらえるキャンペーンが行われました。今回は 7 日間という短い期間でしたが、12 時間以上の利用者が 15 名、8 時間以上の利用者が 17 名となりました。また、9 月からグループ学習室も再開しました。利用する人が皆気持ちよく学習できるよう、ご協力をお願いいたします。次回のキャンペーンは、11 月 11 日 (月) ～22 日 (金) に実施予定です。

## 学習進路関係イベントの予定

10 月～12 月に実施済みまたは実施予定の学習進路関連イベント一覧です。

| 学年                    | 対象      | イベント                                 | 実施日    |
|-----------------------|---------|--------------------------------------|--------|
| 高 3                   | 生徒[希望者] | 大学合同説明会                              | 10月26日 |
| 中 3                   | 生徒      | 法政大学 Diana Khor 副学長<br>キャリア講演会       | 11月1日  |
| 高 1・高 2[希望者]          |         | 芝浦工業大学 SBMC Junior<br>ビジネスアイデア発表・交流会 | 11月9日  |
| 高 3                   | 生徒・保護者  | 進学ガイダンス                              | 11月27日 |
| 高 2                   | 生徒・保護者  | 進学ガイダンス                              | 12月10日 |
| 高 1・高 2[希望者]          |         | 北里大学<br>チーム医療ワークショップ                 | 12月12日 |
| 高 1・高 2<br>[サイエンス希望者] |         | 金沢大学 体験授業                            | 12月13日 |
| 高 1・高 2(中 3)<br>[希望者] |         | 東北大学見学ツアー                            | 12月16日 |
| 中 3～高 2<br>[希望者]      |         | 芝浦工業大学 SBMC Junior<br>スタートアップ企業視察    | 12月18日 |
| 高 2                   | 生徒      | 津田塾大学 高橋学長 講演会                       | 12月19日 |
| 中 2～高 2<br>[希望者]      |         | 東京農業大学<br>「大学の学び」体験会                 | 12月23日 |

## 学力テスト・模擬試験の予定

10 月～1 月に実施済みまたは実施予定の学力テスト・模擬試験の一覧です。いずれも学校受験です。(※印のついているものは会場受験、その他は学校受験です。)

| 学年  | 業者   | 学力テスト・模擬試験     | 実施日    |
|-----|------|----------------|--------|
| 高 3 | 河合塾  | 第 3 回全統記述模試    | 10月18日 |
| 高 1 | ベネッセ | 総合学力テスト        | 10月30日 |
| 高 2 | ベネッセ | 総合学力テスト        | 10月30日 |
| 高 3 | ベネッセ | 第 3 回          | 10月30日 |
| 高 3 |      | 駿台・ベネッセ共通テスト模試 | 10月31日 |
| 中 1 | ベネッセ | 第 3 回学力推移調査    | 1月17日  |
| 中 2 | ベネッセ | 第 3 回学力推移調査    | 1月17日  |
| 中 3 | ベネッセ | 第 3 回学力推移調査    | 1月17日  |
| 高 1 | ベネッセ | 総合学力テスト        | 1月17日  |
| 高 2 | ベネッセ | 総合学力テスト        | 1月17日  |

保護者の皆様は外部模試の結果が戻ってきたら必ずご確認ください。ベネッセのスタディーサポートは約 2 週間後の返却、その他の外部模試は約 1 カ月後の返却となります。

## 2024 年度 指定校推薦一覧

2024 年度(2025 年度入試)の学校推薦型選抜(指定校制)について、本校に依頼のあった大学学部学科の一覧を下記リンク先に掲載します。

なお依頼校や募集人数・被推薦者の条件は各大学が 1 年ごとに見直しを行うため毎年変わります。また、表では全体の成績条件のみを掲載していますが、実際は科目ごとに細かい条件がある場合があります。より細かい条件等について知りたい場合は学習進路部の教員にご相談下さい。

 [2024 年度指定校推薦基準一覧](#)

※ 大学が一般に公表していない情報ですので本校関係者以外への提供は固くご遠慮ください。

『学習進路通信』のバックナンバーはこちらから  
[在校生・保護者の皆様へ > 進路情報](#)